



# ふるさとみてる記

## 旧松尾鉱山 新中和処理施設

八幡平市



東北自動車道松尾八幡平ICから西へ約14km。八幡平の中腹、大正3年から約60年間にわたって硫黄の採掘が行なわれ、東洋一の規模を誇った旧松尾鉱山の跡地に同鉱山新中和処理施設があります。

昭和46年、社会情勢の変化に伴って鉱山が閉山すると、鉱山から大量の強酸性水が川に流出。続く北上川本流を汚染し(写真小・昭和49年当時)、大きな社会問題となったことから、昭和56年11月に同施設が完成しました。昭和57年から独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構が維持管理を行い、365日、24時間、坑廃水の中和処理を継続することで、現在の清らかな北上川を維持しています。このような中和施設は全国に80ヵ所あり、同施設は其中でも最大の施設です。

建設工事に約100億円、維持に年間約5億円と多額の税金で運営されている同施設ですが、万が一、施設が中和処理を停止してしまうと、農業用水89億円をはじめとして、年間約500億円の被害が生じると予測されています(平成14年試算)。また現在、盛岡市玉山区にある水質観測点ではpH7以上を示していますが、処理停止となると、pH5程度になり、魚が生息できなくなるのはもちろん、有毒な高濃度のヒ素が流出し、特に北上川水系を利用する盛岡以南の農業用水に甚大な被害の恐れがあるとされています。